

新生児期・乳児期の問題・愁訴 特に栄養・消化器、心身発達不安頻度の検討

(分担研究：新生児・乳児の栄養管理に関する研究)

研究協力者	南部 春生		
共同研究者	太田八千雄	沢田 博行	服部 哲夫
	坂井多恵子	佐々木真樹	

要 約：well babyでは1～3ヵ月、risk babyでは～6ヵ月までの相談が多く、特に身体発育に影響する栄養・消化器症状、心身発達不安は前者で10%前後、後者で30～50%と高率であった。またrisk baby母乳群の心身発達不安は他の栄養群に比し低率であった。

母親の愁訴はたとえ些細に思えても、適切に対応、指導することが常に重要である。

見出し語：母親の愁訴 well baby risk baby 栄養法別検討

研究対象・方法：1989年10月～1990年9月の1年間に天使病院産科で出生し、6ヵ月迄の定期乳児検診を受けた602例のwell babyおよび1990年度に当院NICUに入院したrisk baby(低出生体重児)77例が対象で、1.well babyについては1～3ヵ月、4～6ヵ月、7～9ヵ月、10～12ヵ月で訴えられた症状・疾患・愁訴を検診カルテから抽出。2.risk babyについては、1)体重別に～1250g群(26例)、1250～2000g群(51例)、2)退院時の栄養法別に母乳(17例)、混合(38例)、人工(22例)に分類し、それぞれ～6ヵ月、7～12ヵ月での訴えについて検討した。なお当院well babyの母親確立は80%である。

結 果：

1. well babyの頻度(表1)は相談件数が1～3ヵ月で161.1%と高く、以後は4～6ヵ月61.3%、7～9ヵ月28.1%、10～12ヵ月37.8%と推移した。栄養・消化器症状はそれぞれ37.0、12.3、8.3、11.5%、心身発達不安は11.0、11.8、8.5、6.1%であった。
2. risk babyの頻度は表2-1)、2)に示すごとくで、体重別では～1250g、1250～2000gともに～6ヵ月までは200%と高く、7～12ヵ月で減少していた。また栄養・消化器症状は前者で84.8、30.8%、後者で45.1、25.8%、心身発達不安は両群ともに50%を占めた。また退院時の栄養法でみると、相談件数は各群と

も同様に推移し、栄養・消化器症状はやや高率ながら各群で差はなく、心身発達不安は母乳群で17.6、11.7%と有意に低率であった。

考察・まとめ：risk babyはwell babyに比し問題・愁訴の頻度は高く、いづれにしても常

に適切な対応と指導が重要である。母親は妊娠、分娩、育児で様々の不安を抱えて過ごしているが、例えば周産期では表3に示した母親の質問・不安に留意した育児指導体制が必要で、新生児医療、保健指導に携わる医師・スタッフは特にその認識を持つことが望まれる。

表1 well baby clinicにおける問題・愁訴頻度

天使病院保健指導室602例*

月令	1～3ヵ月	4～6ヵ月	7～9ヵ月	10～12ヵ月
相談総数	970 (161.1%)	369 (61.3)	169 (28.1)	198 (37.8)
小児科医	319 (53.4)	122 (20.3)	36 (6.0)	46 (7.6)
専門医	110 (18.3)	29 (4.8)	15 (2.5)	15 (2.5)
栄養・消化器	223 (37.0)	74 (12.3)	50 (8.3)	69 (11.5)
心身発達不安	66 (11.0)	71 (11.8)	51 (8.5)	37 (6.1)

*調査対象：1989.10～1990.9の1年間に出生し、6ヵ月までの乳児検診を受けた男女時を任意抽出

表2 risk baby clinicにおける問題・愁訴頻度

天使病院保健指導室77例*

1) 体重別検討

出生体重	問題・愁訴	～6ヵ月	7～12ヵ月
～1250g No.26 (33.6%)	相談総数 栄養・消化器 心身発達不安	54 (207.6%) 22 (84.6) 8 (30.8)	38 (146.1%) 8 (30.8) 13 (50.0)
1250～2000g No.51 (66.4%)	相談総数 栄養・消化器 心身発達不安	117 (229.3) 23 (45.1) 26 (50.9)	62 (122.6) 12 (25.9) 9 (18.2)

*調査対象：1990.1～1991.12までにNICUに入院・治療した2000g以下の児

2) 退院時の栄養法別検討

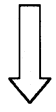
栄養法	問題・愁訴	～6ヵ月	7～12ヵ月
母乳栄養 17 (22.0%) ～1250g (3例) 1250～2000g (14例)	相談総数 栄養・消化器 心身発達不安	44 (258.8%) 9 (52.9) 3 (17.6)	20 (117.6%) 4 (23.5) 2 (11.7)
混合栄養 38 (49.3%) ～1250g (14例) 1250～2000g (12例)	相談総数 栄養・消化器 心身発達不安	92 (242.1) 23 (60.5) 17 (44.7)	68 (122.7) 14 (36.8) 15 (39.4)
人工栄養 22 (29.8%) ～1250g (9例) 1250～2000g (13例)	相談総数 栄養・消化器 心身発達不安	50 (272.7) 11 (50.0) 11 (50.0)	27 (122.7) 5 (22.7) 8 (36.3)

表3 Perinatal coaching (interview)

天使病院新生児室 1496例 (%) *

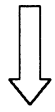
母乳に関する質問230 (15.4)		上の子に関する質問544 (36.4)		その他の質問772 (48.3)	
				病気・症状・不安・生活・その他	
母乳不安	60 (4.01)	不安	94 (6.28)	なし	93 (6.22)
授乳のタイミング	45 (3.01)	対応	53 (3.54)	NICU・小さい	52 (3.47)
母乳不足	24 (1.60)	赤ちゃん返り	52 (3.47)	判らない	50 (3.34)
断乳の時期	8 (0.53)	甘える	31 (2.07)	うつ伏せ寝	24 (1.60)
哺乳後すぐ寝る	7 (0.46)	オムツ・夜尿症	17 (1.13)	アレルギー・アトピー	24
飲んでくれない	5 (0.33)	やきもち	16 (1.06)	とにかく不安	23 (1.54)
上手に飲めない	5	アトピー・アレルギー	15 (1.00)	働くのはいつから	19 (1.27)
母乳の与え方	5	母乳をほしがる	15	泣きやまない	19
乳嘴悪く飲まない	4 (0.26)	反抗的	14 (0.94)	ペットの不安	17 (1.13)
吸い方弱い	4	5年以上開いて心配	14	泣き方の判断	16 (1.06)
吸い方強い	4	良い子すぎる	13 (0.87)	里帰り	13 (0.87)
*母乳の内服薬	4	指しゃぶり	11 (0.74)	黄疸	13
啼泣後直ぐ授乳	3 (0.20)	乱暴する	7 (0.46)	自分の体調が悪い	11 (0.74)
母乳良く分泌	3	かぜびき易い	6 (0.40)	便の不安	9 (0.61)
乳嘴に軟膏塗布	3	すぐに泣く	6	双子	9
				よく泣く	9
				抱きぐせ	9
その他	39項目50例 (3.3)	その他	92項目180例 (12)	その他	147項目354例 (23)

*調査対象：1989.11～1991.4の間に育児指導をうけた産婦



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:well baby では1~3 カ月、risk baby では~6 カ月までの相談が多く、特に身体発育に影響する栄養・消化器症状、心身発達不安は前者で10%前後、後者で30~50%と高率であった。またrisk baby 母乳群の心身発達不安は他の栄養群に比し低率であった。母親の愁訴はたとえ些細に思えても、適切に対応、指導することが常に重要である。